

キリスト教の土着化における同志社と高梁の共通点

まず本日来場されている私の友人、八木橋康広先生を紹介させていただきます。八木橋先生は日本基督教団高梁教会の牧師です。高梁教会は日本で2番目にできたプロテスタントのキリスト教会で、1番目は同志社です。八木橋先生は、この高梁におけるキリスト教の土着化を熱心に研究していて、このテーマで博士論文を書き、同志社大学院神学研究科から博士学位を授与されました。論文はミネソタ州から出版されています。

高梁にキリスト教が入ってきたのは、1879年でした。相当早いです。八木橋さんの本では、備中松山藩主の板倉勝静との関係で、新島襄の歩みが語られています。自分の主人である安中藩主に失望した新島は、高梁で良き理解者を見つけました。そして函館で英語を学び、アメリカに渡ります。

新島はアメリカで決して優等生ではありませんでした。普通、アメリカに留学した人はB. A. (Bachelor of Arts and Science) という学位を取りますが、新

にするために作った学校です。同志社は、ミッションから支援は受けるが、指示はされないという立場でした。同志社はミッションスクールではなく、キリスト教主義の学校です。輸入物ではなく日本の風土に根ざしたキリスト教を追求するのが、同志社の伝統なんです。

同志社の建学の精神は「良心教育」です。キリスト教で考える良心とは何か。自分は良心的に生きたいと思うけれども生きられない、だから悔い改める。反省できる人になる。そういう姿勢を常に持つておこうというのが同志社の精神です。

ちなみに新島襄の評伝には、新島を人格化したようなものも多いです。そうでない本、今述べた良心のとらえ方をベースとして書かれた本としては、同志社大学文学部社会科学新聞学専攻の教授をしていた和田洋一先生が日本基督教団出版局から出した、『新島襄』がいい。長らく絶版になっていましたが、私の解説を入れて岩波現代文庫から2015年に出ています。

本質に目を向ける信念の同志社人

2017年は大政奉還150年ですが、



レクチャー

同志社フエアin高梁

「新島襄と高梁」

作家・同志社大学神学部客員教授 佐藤 優氏

高梁はB. S. (Bachelor of Science) だった。アーツが苦手だった。ギリシャ語、ラテン語ができなかったんです。ちなみに内村鑑三もそうでした。その理由を新島は、原因は日米の教育システムの違いだと認識し、総合知をきちんと育てる大学を日本に作ることを考えたのでしよう。1875年、新島は同志社英学校を創設しました。第1期生の一人が金森通倫ひ孫は自民党の石破茂さんです。この金森通倫が伝道に来るなどして、1882年4月に高梁教会ができました。1884年には迫害が起きますが、県知事がキリスト教を助けてくれました。

今の教会堂ができたのは1890年。宮大工たちが手がけたものです。建物には精神が宿るから、この教会の牧師は半分、神主みたいになってくる。だから教員は、氏子さんという雰囲気教会です。これでいいんです、これが「土着化」だからです。

キリスト教の土着化は、実は非常に同志社的なテーマでもあります。よく同志社はミッションスクールだと勘違いする人がいますが、ミッションスクールとは、外国がキリスト教を使って日本を植民地

マルクスの『資本論』刊行150年でもあります。この資本論と高梁は非常に関係があります。宇野弘蔵という、高梁出身の経済学者がいます。この人がいなければ、日本の資本論の研究水準は全然違うものになっていました。ひとこと言うと、資本論は革命の本として読むのではなく、資本主義の仕組みがどうなっているかという理論の本として読むというのが、宇野の考え方でした。

宇野弘蔵は同志社とも関係があります。最初はアナキストでしたが、山川均と出会ってマルクス主義に考えが変わりました。山川は倉敷出身の薬屋の息子で、同志社英学校を中退した人です。最初はキリスト教社会主義者でした。しかし、人道主義だけでは世の中は変わらないと考えてマルクスに触れていき、第一次共産党を作った。しかし共産党員が孤立して大衆から遊離していると考え、すぐに離脱します。そこで「無産階級運動の方

クス経済学に進みます。ただし共産党系ではなく、山川たちの影響を受けた労働派マルクス主義の系統になっていく。高梁は、日本の知性をつくる上でも、宇野弘蔵のような重要な人を生み出している訳です。このまちの風土と、独自の自立した形の知。これらは大きなテーマです。私は2002年、鈴木宗男事件に連座して東京地検特捜部によって逮捕され、512日間勾留されました。逮捕前に疑惑が出てきた時点で、高校時代の友人には、官僚やジャーナリストが多いのですが、クモの子を散らすようにいなくなつた。一方で

同志社の神学部の友人は、逮捕された日の夜に私の支援会を作ってくれました。八木橋先生もすぐに加わってくれました。世話人の滝田



敏幸は当時、千葉県の印西市議だった人。今は県会議員です。滝田は自民党なので、私は彼の立場を心配しました。私は自民党政権の権力闘争に巻き込まれたからです。すると彼は自分の立場よりも、自分の信念を優先するんだと断言してくれた。本当の事は、話せるときに来たら話してくれと。こちらが順調なときは知らんぷりをされていて、何かあると駆けつけてくれる。それが同志社の友人たちです。目には見えないが確実に存在するものが、ちゃんと見える。そして必要なときにはリスクを負ってでも手を差し伸べてくれる。それが同志社人なんです。

入試制度改革で日本が変わる

ここで、教育の話をしてします。2020年度から学習指導要領の改訂が始まり、また大学入試が改革されます。日本の教育が本当に変わるときとは、入試制度が変わるときです。現在の日本の教育は1979年型です。共通一次試験が導入された1979年以降、マークシート試験の普及に伴い、偏差値による大学・学部の序列化が大きく進んでしまっています。その結果、文科系の数学必修が無くな



経営学部生が増えました。国際基準では考えられないことです。新興の私立中高一貫校の責任も重い。中学1、2年時の数学の成績が悪ければ、早慶狙いで3科目に特化させるからです。その結果、2分の1プラス3分の1を「5分の2」と答える大学生が17パーセントいる。難関大学でもそうです。あるいは理科系では、歴史は近現代史しかしない。学生が悪いのではなく、そういう教育体制が悪い。2020年度に国公立の大学入試制度が変わります。数学でも歴史でも記述式問題が導入され、英語はTOEFL[®]、IELTS、TOEIC[®]、英検など実

りました。数学を無くすと、入学試験の合格偏差値が3〜5上がるからです。

結果として、数学がほとんどできない商学部生、経済学部生

用英語の試験になる。スペックが全然違ってくる。このスペックを身につけた人たちが20年後に社会の中心になっていきます。今の教育を受けている人は、現状のままだとすぐに追い抜かれます。

教育改革を先行している同志社大学

同志社大学では、今の松岡学長がこの辺りの問題意識を非常につきりと持っていて、アクションプランを立てています。新しいスペックに対応できるような教養幅広い知識を、今から学生につけさせようとしています。例えば今、同志社の生命科学部と経済学部、社会学部に「サイエンスコミュニケーション養成専攻」があります。東京大学先端科学技術センタリーから同志社大学生命科学部に来てくださった、野口範子先生が中心となって創設されたもので、これも面白いです。教育システムは本当に重要です。安倍総理や菅官房長官が、北朝鮮がサリンを弾頭につけて日本に飛ばしたら大変だと話していました。高校レベルの物理と化学の基礎知識があれば、こんな異常なことは言いません。サリンは化学物質で、熱変化に弱い。1000度以上の摩擦

熱を持った弾道ミサイルの中では、サリンの毒性は無くなりません。これは教養の問題というより、教育システムの問題です。今の政府の中核部にいる人たちは文科系の勉強しかしていません。理科系の高校レベルの知識が欠けていると、国家の判断を間違えることがあり得る。少なくともこういう危機があることを同志社は理解しています。だから手を打とうとしているんです。

よく校友から、同志社がスーパーグローバル大学に採択された学校よりもずっと優位性が出てきます。率直に言うと、英語による授業を増やした大学は必ずしもうまくいっていません。旧帝大から有名私大に行つた西洋古典を専門とする先生の話によると、英語による授業で伝えられる情報量は、日本語による授業の3割。日本人学生にとって英語による授業内容の把握度は、日本語による授業の2割だろうと言う。3割かける2割は、6パーセントです。

同志社大学は、開学時点ではほとんどの授業を英語で行っていました。神学、数学、化学などの概念が日本語に無かつたからです。それを20年から30年かけてようやく日本語で教育できるようにした訳です。土着化です。シンガポールや中国で、物理学あるいは神学の授業を英語でやっているのは、現地語にする力が無いからです。高等教育は母語で受けた方が絶対に身に付きます。その上で英語は、必要な人が集中的に学習していけばいいのです。

優秀な学生の積極性を生かす 新たな同志社教育

私は一昨年から同志社のお手伝いをしていて、昨年からは神学部の客員教授をしています。いま松岡学長はリーダー養成プログラムを作ろうとしています。期せずして私は土曜日に3講時連続で、エリート養成プログラムをやっています。学生たちには、実際に映画を観て、作品の中から神学的なモチーフを読み取る「表象文化」という、難しい勉強をしてもらっています。また、学生たちには毎日、任意で学習報告をさせています。き



があるかどうかです。同志社の、特に文科系の3科目入試なら、頭のいい子であれば3カ月程度の駆け込みで合格できます。この密度の高い勉強を2年続けられれば、東大や京大は簡単に合格できる。私のクラスの神学部の子生たちには、入学後は英語を徹底的に勉強するよう指導しています。また学生たちも数学の重要性を高校時代から認識して、勉強を続けています。よく勉強する学生たちが集まっています。

神学部の2回生に、非常に優秀な学生がいます。数学も英語もよくできて、半年程度で大学院レベルの勉強についていけるほどの学生です。いろいろなことを幅広く勉強したくて同志社の神学部に来たと言います。進学に悩んだ時、父親に相談したら、「大学は就職予備校ではないから、やりたいことをしなさい」と助言された。大学を就職予備校とは考えていない学生が、結果的には一番いい就職をしそうな感じがします。

あるいは生命医科学部にも非常にユニークな学生がいます。彼女は中学生の時に福島県にいて、東日本大震災と福島第一原発事故に遭遇しました。同志社国際

高校在学中、雅子妃に手紙を書いて皇太子夫妻の訪問につなげたのも彼女です。OECDが実施している、PISAという世界規模の学力チェックのモニターにもなった。2018年に同志社で開催される世界学生環境サミットに向けても、活動をしています。これも松岡学長だからこそ、学生たちの積極的なイニシアチブを生かすことができているのだと思います。いま同志社では内側で、非常にリアルな転換が進んでいます。

一方で、グローバルなことを考えている教え子もいます。卒業後は地元の愛知県で就職して、将来は地元で地方公務員か国税専門官になりたいと言う。そこで神学部にいる間に教養を身につけたいと考えて、大学のプログラムを使ってフランスに2カ月間、短期留学をしてきました。いま同志社大学には素晴らしい留学プログラムがたくさんあるので、神学部からどんな学生を送り込んでいきます。考えてみると、新島襄は中央集権志向

ではありませんでした。中央集権志向なら、東京に大学をつくれればよかったです。やはり同志社精神というのは、各地方で、良心を持ってリーダーシップを発揮でき

る人材を育てるところにあります。そうなる、

例えば同志社と高梁市が提携して、高梁の名を冠した連続講座をここで行うのもいいでしょう

う。講座内容は書籍化し、このまちの魅力を伝えることによつて、高梁出身者のUターンを促す。あるいは同志社の卒業生を高梁へいざなう。そういうことも可能です。

ぜひ松岡学長を中心として、同志社大学を応援してください。どうもありがとうございます。(2017年10月28日、高梁総合文化会館にて)

